

平成30年2月22~23日にソウル国立大学にて開催されたThe 9th Joint Symposium of Veterinary Research in East Asiaに参加させていただきました。私自身が同シンポジウムに参加するのは2回目でしたが、3年前、博士課程に進学して初めて参加した海外でのシンポジウムに、大学院卒業を間近に控えた今、再び参加できたことを嬉しく思います。今回は、わけもわからずいきなり参加した前回と違い、参加するメンバーや教員の方々も気の知れているばかりで、どことなく安心感を持って臨めました。

まず驚いたことは、ソウル大学の規模の大きさです。特に動物病院は昨年に新しくしたばかりで、とても大きく綺麗でした。診察室も12部屋あり、動物の入院室も多く、また広いカンファレンスルームがあることから、学生の学ぶ場としてはとても良い環境であると感じました。

また本シンポジウムや懇親会を通じて、多くの情報収集をできました。正直、今回は自分と近い研究分野の発表が少なく寂しさを感じていましたが、その分、ポスターセッションの時間では興味ある発表に時間をかけて拝見することができました。また異なる分野であっても、自分と同じ大学院生の方々の発表を聴くことはとても良い刺激になりました。そして懇親会では、最新の研究動向や他組織の研究に対する姿勢なども聞け、今後の自分の研究課題なども考えることができました。

2日間を通じて、研究に対するモチベーションが上がるだけでなく、学会やシンポジウム等への参加の意義を改めて考えることができました。今後、社会人として研究をしていく際、自分がどのような研究をどのように行うかを決めていく上で情報収集は必須であり、そのためには学会等への参加は非常に重要であると実感しました。語学力向上や研究技能の向上、そして情報収集の大切さを改めて感じた二日間となりました。

最後に、今回貴重な機会を与えていただきまして、山口大学連合獣医の関係各位に感謝申し上げます。

